



# 朝東っ子だより

令和7年12月号 令和7年12月1日発行  
川口市立朝日東小学校

【学校教育目標】よく学ぶ子 心の豊かな子 じょうぶな子 児童数 1年生47名 2年生68名 3年生58名 4年生56名 5年生55名 6年生59名 計343名

## なりたい自分を想像する

校長 春川 嘉孝



新しい学年に進級し、多くの行事、学級での生活を通して、すごしたこの一年間の自分自身を振り返る12月。二学期も家庭、地域の皆様にはたくさんのご支援を賜り、どのお子さんにとっても実りのある学期となりました。ありがとうございます。

みなさんは「中村哲医師」をご存じでしょうか。私は、数年前に「中村哲さん」に触れる機会をいただき、毎年一回は、医師のドキュメンタリー映画を見ては自分自身の生き方を振り返っています。中村哲さんは、パキスタン、アフガニスタンで医療活動をしなが、荒野の台地に用水路をひき、緑の大地を作り、その国の人たちの生活を豊かにするために力を注いだ方です。はじめて出会ったときは「なぜ、医療活動から用水路を引く活動にまで広がったのか？」という疑問がありましたが、映画や書物、生き方に触れる講演会に参加するたびに、中村哲さんのすごさに触れることになりました。日本から遠く離れた場所での活動。言葉も文化も違う生活の中で、現地の人たちと共生していくその姿。講演を聞くたびに、中村哲さんの生き方にあこがれを抱きます。民族も宗教も違いはあるけれどそれをも乗り越える気持ちは「平和・真心・良心・希望」であったということ。また「助け合うことの大切さ」「いろいろな人とのかわり、自然とのかわりがあることがあって生きていること」その姿を真似することは到底及ばないと考えてしまいましたが、中村哲さんが大切にしていた「一隅を照らす」という言葉に、自分にも何かできるのではないかと、少なくとも自分のことだけでなく、他者を慈しむことで、少しでも近づけるのではないかと、自分に言い聞かせています。

朝東っ子はどんな人になりたいのか。「わたしはこんな人になりたい」「将来、こんな仕事に就きたい」夢や希望をもって、自分のなりたい姿をぜひ、想像していったほしいと思います。そして、保護者の皆様には、ぜひ、その思いをくみ取り、全力で応援していただければと思います。彫刻家の外尾悦郎氏は「お子さんが好きなことを見つけたら、それは最高のチャンスである。でも、善いこと、悪いことはしっかり保護者は教えなくてはならない。お子さんが好きなことを突き詰めていくうちに、何でもできるんじゃないかと思えてくる。そこで、大切なことは善と悪。礼儀である」と、あるテレビ番組のインタビューで答えています。ぜひ、お子さんと一緒に「未来」を語っていただければと存じます。

さて、来年は「丙午（ひのえうま）」60年に一度巡ってくる干支で「丙」という十干の火のエネルギーと「午」という十二支の午（行動力やスピードを表す）が組み合わさったもので「丙午」の年は「情熱と行動力で道を切り開く、燃え盛るようなエネルギーの年」という解釈があるそうです。では、令和7年は見てみると「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いをもつ年と言われています。（～AIによる概要～）次の新たな一年に向けて、準備をしていたこの一年間。一人一人が目標をもって、希望をもって過ごしていきたいです。

本年も家庭・地域の皆様には、本校教育活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。引き続き「学校で学び、家庭でしつけ、地域ではぐくむ朝東っ子」の思いを共有しお力をいただければと存じます。皆様どうぞよいお年をお迎えください。